



多摩美術大学校友会会報

「alT」 アルティ

The alumni association of Tama Art University

No. 11

目次 Contents

- 02 特集「出前アート大学」
授業No.007 「とばないタコ」をレポート！
- 03 これまでの出前アート大学のご報告
- 04 校友会奨学金制度
- 収支報告書
- 第11回定期総会議事録
- 05 支部・有志活動のご報告とお知らせ
- 06 TAMABI people's now vol.002
きむらゆういち
- 08 事務局からのお知らせ

alT	4
1	
2	5 7
3	6 8

1. 70周年記念バルーン・オブジェ(babot)
 2. 構内(デザイン棟)に設置された休憩所
 3. 校友会主催による「Cafe alT」
 4. 「美大生ユーミン・多摩美にユーミンが帰ってくる日」演奏中、中庭特設ステージ風景
 5. 70周年記念スタッフジャンパー
 6. 本部棟前
 7. 出前アート大学「とばないタコ」
 8. 出前アート大学の授業風景
- *1~6は70周年記念ホームページにて撮影。

今年度も校友会奨学生を給付！

校友会には、2種類の奨学生制度があります。ひとつは私費留学生を対象とし、研究室から推薦される「私費留学生奨学生」です。これは、年末に行われる「多摩美術大学校友会小品展」とリンクして、その展覧会の売上金が奨学生にあてられるというシステムです。もう一方は応募制で、「計画書」の内容を審査して決定するものです。これは、「計画書」のみ資料として研究内容や今後の計画を審査するという選考方法で、大学の成績や家庭の経済的事情を審査基準としないところが特徴でもあります。それは、とりまく環境に左右されず、本人の意思・やる気を大きく反映できるチャンスにしたいと考えているからです。募集は、毎年6月です。多くの意力ある学生さん、チャレンジしてください！



平成17年度校友会私費留学奨学生

金景哲(キム・ヨンミン)
大学院美術研究科博士後期課程彫刻専攻1年(韓国)
曲藝(キョウゲイ)
美術学部グラフィックデザイン学科3年(中国)
金載榮(キム・ジェヨン)
大学院美術研究科博士前期課程デザイン専攻2年(韓国)
林郁如(リンイクジョ)
美術学部生産デザイン学科テキスタイルデザイン専攻4年(台湾)
朴眞正(パク・ジョン)
大学院美術研究科博士前期課程絵画専攻1年(韓国)

平成17年度私費留学奨学生のみなさん

(敬称略)



平成17年度校友会奨学生

濱田礼子
美術学部絵画学科日本画専攻4年
片山真紀
美術学部絵画学科油画専攻4年
小鉄美由
美術学部絵画学科油画専攻4年
村越晴代
美術学部絵画学科油画専攻3年
佐貫巧
美術学部絵画学科油画専攻3年
笠間弥路
美術学部彫刻学科4年
大場祥平
美術学部生産デザイン学科テキスタイルデザイン専攻4年
栗原真紀子
造形表現学部造形学科3年
加藤久美
造形表現学部造形学科4年
金子英夫
造形表現学部デザイン学科3年
佐藤三加
造形表現学部映像演劇学科4年
上野倫可
造形表現学部映像演劇学科4年
小林弥生
大学院美術研究科博士前期課程絵画専攻1年
賀藤洋子
大学院美術研究科博士前期課程工芸専攻1年
李アロン
大学院美術研究科博士前期課程デザイン専攻2年
(敬称略)

1996年から始まった校友会奨学生制度。校友会では、これまで105名の学生に奨学生を授与しました。授与にいたるまでの応募のきっかけや、その奨学生がどのように奨学生を活用されたのか、どのような活動をされているのかは、みなさんの興味あるところです。今回は、平成10年度奨学生の河内秀子さんと今年度奨学生の李アロンさんにお話しをうかがいました。

Q1. 奨学生に応募した動機・きっかけ Q2. 応募時の研究内容 Q3. 奨学生はどのように、何に使ったか Q4. 現在の研究・活動について Q5. 今後の計画(希望・夢)について

1. 「Seoul Design Festival 2005」韓国での展示風景。
2. 孝(filial piety) 3. 僕(brotherly) 4. 忠(loyalty to the king and state) 5. 雅(decorum)



Kawachi Hideko 河内秀子

2000年 絵画科油画専攻卒業

A1. 97年、大学の学芸員資格取得のための授業でギャラリートムへ行き、アイマスクをして彫刻を触る体験をして驚き、感動する。これが全てのきっかけとなった。自分の作品もこうやって触ってみてもう考え、様々な見る作品を通して伝え、またアーティスト自身もみえてくる展覧会を企画することに、参加者を募集し、私の呼び掛けに応じてくれた人達と共に会場や展覧会、そして作品のコンセプトを練り、着々と展覧会準備が進んでいったが、会場費用は決して安くはないし、チラシやDM製作費等もかかる。参加者から参加費をついたが、雑費等の足しになれば…と多摩美の奨学生に応募することにした。

A2. 99年度の「みえない展覧会」企画。

A3. 99年度の「みえない展覧会」展覧会に関する她費の一部。この企画は有り難いことに、素晴らしい参加アーティスト、ボランティア参加者に恵まれ、99年に展覧会を訪れた観客達からも沢山の感想を寄せてもらった。「みえない展覧会」は2000年度も開催され、2000年度は、パルテノン多摩から会場提供。花王芸術科学財団、アサヒビール、TOYOTA、National/Panasonicにスポンサーになって頂くことができた。企画の雑費に使われた奨学生ではあるが、この企画を起こし、このために仕事をしたことが、私自身を大きく変え、また、現在まで支えてくれた。多摩美の奨学生は頼らなければ小さかったが、まだ実現していない企画が他人に認められた、という意味で、とても嬉しい思った。

A4. 2000年3月大学を卒業、4月には第2回「みえない展覧会」を開催。企画方面で仕事したいという気持ちもあったが、卒業後、海外に行こうと思っていたので、6月末に渡独。ドイツ語を学んだ後、ベルリン美術大学に入学。ほぼ1年ぶりに取りかかった作品制作は単純に楽しく、制作活動に勤しみきかけとなった。以降、展示やパフォーマンスを定期的に行う。今春に大学院を卒業し、5月から10月末まで、東部ドイツの小都市でアーティスト・イン・レジデンスを行った。森の中で、きりの人に手伝ってもらったりの制作や小学生とのワークショップ等、ベルリンでは味わえない体験ができた。大学卒業後の自分の制作スタンスを固めるためにもこうやって、奨学生をもらいながら隔離状態で制作できたのは良いタイミングだった。

A5. 11月にベルリンで個展開催。来年まで、ドイツの刀職人とのコラボレーションに取りかかっている。ドイツには沢山の職人が存在し、彼等と一緒に作業し、自分の作品に協力してもらえるというは素晴らしい体験。これからも機会があれば積極的にプロジェクトを考え協力者を探したい。偶然出会った人達に参加してもらう、七夕のパフォーマンスを2001年から毎年行っているが、毎年、人のリアクションに驚かされる。今年は行えなかったのだが、数年前に参加した人が、七夕を折り数えて持っていてくれて、今年は無いと聞いて涙ぐんだらしい。作品を見て、インスピレーションを受けたと歌い出した人もいる。作品を通して、そういう人達に会えるのが面白いし、これからも出会いのある作品発表をして行きたいと思っている。

1. in/visible body 1999年／「みえない」展覧会／人間、プラスチック、鉄、ビニール等。

2. sewing 1999～2001年／卒業制作で発表した写真を映像にし、ベルリンで発表。co-opギャラリー／写真、プロジェクト

3. blades 2005年／ベルリン／メタリ、皮等。

4. entrance 2005年／ベルリン／ビニールスリッパ

1. 2
3
4
5

1. 2
3
4
5



1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130



KIMURA YUICHI

graduate of the department of oil painting

第2回目の「TAMABI people's now」は、12月10日より全国東宝系お正月ロードショーとして公開される「あらしのよるに」の原作者、きむらゆういちさんの登場です。今、多くの脚光を浴びるにいたった創作活動への信念や、けっして平坦ではなかった学生時代からこれまでの歩みについてお話をうかがいました。

インタビュー・文=イサオ マツノ(64図平・校友会理事)

撮影=森本政十郎(89G)

TAMABI people's now

卒業生にインタビュー

vol.002

きむらゆういち(本名:木村裕一)
東京生まれ。1972年絵画科油画専攻卒業。
造形教育の指導、テレビ幼児番組のブレーンなどを経て、絵本・童話作家に。絵本、仕掛け絵本、戯曲など幅広い分野で活躍し、著書は300冊を超える。数々のロングセラーは国内外の子供たちに読み継がれている。

●受賞作品

- '91年 「いろいろおはげ」(ボンボン社)で第1回けんぶち絵本の里ビバカラス賞を受賞。
- '95年 「あらしのよるに」(講談社)で講談社出版文化賞(絵本賞)・産經児童出版文化賞(JR賞)を受賞。
- '97年 「きょうりゅうううう!」(小学館)で第7回けんぶち絵本の里ビバカラス賞を受賞。
- '97年 「劇団!」(角川)に岸田今日子企画で初めての舞台脚本を書く。この演劇「あらしのよるに」が東京都優秀児童演劇優秀賞、松尾芸能財團研修奨励賞、厚生大臣賞、森田百戲曲賞を受賞。
- '05年 「きすだらけのりんご」で2005年優秀映像教材選定最優秀作品賞・文部科学大臣賞を受賞。

●開拓での活動

- '83年~ヘルギーの「Okki! Jippo」2話に連載。(~'84年)
- '88年~イタリアの「Quik! SOTEMA社に連載。
- '88年~ボローニャ国際絵本展10年連続出品。
- '98年 「IN UNA Notte di temporale」「あらしのよるに」をイタリア・ミラノのサラーニ社より出版。その他、台湾・韓国・ブラジル・フランスにて15点以上が出版されている。

●制作・執筆などにかかわったメディア

- <TV番組>
- 「とびだせパンボロリン」(テレビ朝日)アイディア・制作
- 「なんじょもんじゅう」(日本テレビ)監修・構成
- 「おかさんといっしょ」(NHK)アイディアブレーン
- 「ひらけおひっく」(フジテレビ)アニメの構成
- 「わくわくランチ」(テレビ朝日)構成・アイディア
- 「ハックン! まご」(テレビ朝日)アイディア・制作
- 「ワニいってんの」(テレビ東京)アイディア・出演などを担当
- 「いないないわはは」(NHK教育)構成(現任)

<幼児雑誌>

- 「たのしい幼稚園」「めはえ」「ワンダーブック」「キンダーブック」「まいこのくに」「こどものくに」「ひかりのくに」「なかよしメイト」「チャイルドアップル」他多数。

●教育活動その他

- '72年~子ども造形教室を開設。
- '74年~小学校学年雑誌の付録のアイディアを担当する。(~'84年)
- '74年~チャイルドアートセンターを主宰。アニメーション作りや手作りおもちゃ作りなど幅広いカリキュラムでユニークな教室としてTVや新聞などにたびたび紹介される。
- '78年 白百合女子大学女子短期大学部講師に就任。
- '84年~「がらくたランド」(渋谷西武)にて手作りおもちゃを中心に育児雑誌などに紹介される。
- '98年 「あかちゃんのあそびえほん」10周年500万部突破記念フェアを全国で開催。
- '98年 初めて挑戦したコミックの原作『月の裏側』(祥伝社)が出版される。
- '98年 白百合女子大学児童文化学科講師に就任。
- '00年 「あらしのよるに」が小学4年生の国語の教科書(光村図書)に掲載される。
- '05年 東京純心女子大学こども文化学科客員教授に就任。



子供に教えていると、子供たちが素晴らしい表現やヒューマニティを見せるので、教える大人がハッときさせられハマってしまうと良く聞きますが…。

子供が天使とか、子供が素晴らしいとか言うけど、悪魔な一面も持っているし、天使でもないし、自分のことしか考えてないしね、あいつら、僕は同じ人間なので子供を子供と思わない、そういう意味で子供を美化したくないっていうか、だからこそ得るものがあるし、ぶつかる。彼はまだ何も知らないから面白いことを言うんですよ。言葉は100個あるうち5個くらいしか知らないから、5個の組み合わせで何かも発する。たまたまその組み合せが面白い発想に聞こえるんだけど、それは、大人が常識に染まっているから、どうしてもその魅力に引き寄せられちゃう。子供の頃が美しいなんて言うけど「そういうのは、うそ!」と思って、毎日子供と関わっています。子供はみんな可愛いんですけど、妙に美化するのは気持ち悪いですね。

子供たちと接していく、何か感じことがありますか。

同じ人間であり、根っこにあるのは同じで子供だからといって基本的に愛りません。そこにあるものを見つけて面白がる気持ちも同じなんです。でも、親って自分の価値観や環境を子供に与えるでしょう? 子供も子供なりにその環境に合わせようとする。例えば、もともと河原や野原で遊んでいたものがマンションの廊下になっちゃったりとか、そうなると汚るとか、いろいろなものに制約されてくる。さらに、「遊びモノ」が体を動かさないモノとか、画面になっていくとか、非常に不自然になっていくところがありますね。今、読み聞かせ運動で、とにかく本を読めと言っている立場なんですが、もっと外で遊べと言いたいですね。



←はじめて出版された童話の本
1972年出版
「じゃんかわいじゅう」
きむらゆういち 作・絵
ボンボン社

中学生の頃の木村少年はどんな少年でしたか。

TVもない、電話も呼び出し電話で、ラジオしかなかったから今の子供のように電話でTV番組の話をするようなこともなかった。だから絵を描いたりして、空想の世界へ、みんなをギャンといわせたりとか、みんなのヒーローになるような空想ですね。日常生活の中でそうではない、控えめでおとなしい子だったから。ドラえもんに出てくるのが太の発想で、ある日突然にドラえもんのおかげで自分が特別になれるような空想の世界ですね。

本好きの少年でしたか。

昔から本を読むのは嫌いで、僕は漫画少年。漫畫は大好きなんだけれど、字がいっぱい書いてある重い本を見るとうんざりしてね。だから、今までまともな小説は年に1冊も読まないし、書いた本のほうが膨大に多いから、読まない。じゃあ絵本を読むかって言うと絵本も重めはほとんど知らない。子供向けの本が今みたいに豊富ではない時代でしたし、絵本作家がこんなに絵本を出す時代なんて、つい最近ですから。宮沢賢治もまともに読んでないし、「不思議の国のアリス」もディズニーで見ただけだし「ぐりとぐら」とか名作なんかも読んでないですよ。活字を書くのは好きだけど読むのは嫌い。でも、マンガはたくさん読んでいます。ちばてつや、石ノ森章太郎、COMの創刊号からガロとか、たくさん持っています。30冊だった頃の少年マガジンも取ってあります。

仕事に対する基本的な考え方は何ですか。

僕の場合「生活の安定」と「好きなこと」の両端極端をずっと繋げるわけです。生活のために他の仕事をしながら「好きなこと」をするんじゃないなくて、全て収入になる仕事のやり方をしている。やりたいことの、まず端っこで飯を食って横にずーっとそれで、常に収入が続くわけです。最初に付録の考案とか造形とかしながら、造形的な絵本、絵本だけが形が入って、そして仕掛け絵本と繋げてきている。全て、一度も收入にならない仕事はしていない。高校時代からトラウマのように金になる仕事しかしていないのね。

大体、本になるかなならないの原稿を何ヶ月も書き続けることって、エネルギーが要りますよね。本にしてやるから書けって言われたら一生懸命書きますよね。もともと怒れる人で、そう言われるようを持っていくんですよ。自分がそうすれば書く気がおきる。

絵本「あらしのよるに」は魅力的なあべ弘士さんの絵との相乗効果で完成度の高い作品だと思いますが、原作者として絵描きさんの選出はどうしていますか。

例えば僕は油画家なんで、田島征三さん、長新太さんのような絵を描きたいと思うんですけど、これまでやってきた絵の作り方や手作りおもちゃの作り方は田島征三さんの絵では出来ないです。仕掛け本も難しいですね。当然、仕事として使える絵を描きますね。そうすると、ついキャラクターっぽい絵になります。でも、僕の本当に描きたい

絵と違うっていうのがずっとあって、「あらしのよるに」の原作を書いた時に、これに絵をつけるのは絵描きとして俺のベストかなって思って、実は悩んだ挙句、欲張らないで原作者としてまず売ってから、で絵描きをつけようと思ったんですね。それで、あべ弘士さんの絵になつた。ただ、その前に「チャレンジ1年生」という雑誌に回りましたよ。その時に自分で絵を描いてみて、でも、もう少し絵の勉強をしてからやろうと思って絵描きさんを選んだ(笑)。

物語を通して伝えられたことが、予測に反して受け取られてしまった場合などは…?

予測に反して…それが絵本の良いところで、実際には僕は子供のことは考えてないんですよ。君たちは子供なので、良い子になって欲しいためにこういう本を書きましたなんていうのはウソですから。そんなことわかんないですよ。俺のことしかわかんないんだから俺は! 俺は大人で子供になれないと。無理して子供のものを書くことのほうが不誠実だと思ってるんですよ。だから「昨日、俺は失恋して悲しいからこの本を書いたんだ!」いいわけですよ。その時にこんな発想があった、ちょっとワクワクする様な思いがあって、そういうのを書いて。でも、それは、人の受け取り方で全然かまわない。

例えば、漢字の言葉をひらがなにひらくと変な時やイメージが変わってしまう時なんか、何とかひらがなでわかりやすい文章にすることだけ一生懸命やるけれども、根っこ部分を自分で勝手に子供目線にすることはウソだからやらない。素の自分をぶつけるしかないと思ってる。実は、男と女の話も結構入っているんですよ。でも、お母さんはそれを動物以外にも、自分の何かに置き換えて読んで泣く人もいるわけですよね。当然、子供はオカミとヤギの話だと読む子もいるし、それは自由なんですけど、僕が提供するものは素材ですから。「あくまで素材だから、料理は好きにしてよ!」みたいな。そうすると、同じ料理が出来るとは限らないし、違っていていい。

お母さんは、これは教育に役に立つと思って持っていくかもしれないけど、そんなこと、僕はまったく考えていませんから。

『あらしのよるに』の劇場アニメ映画が12月に公開予定ですが、将来的に仕事の展開はどうやっていきたいと思っていますか。

いつか自分が映画を作る時のためにと思って今回の映画の制作工程を一通り全部立ち会った。一度、会社に勤めたもの、なんでかというと、いつも社員旅行の話なんか書くかもしれないかと思ったんです。教科書から官能小説まで書かなければいけないんです。でも、カメラは入ってない。機械は難しいので。今作っている本は、医学の本、乗り物絵本。それからトレンド・ドラマ『大人向きのラブストーリー』を…。もう一つの『あらしのよるに』って言うような、パロディ一本なんかも考えています。



今、ハマっていることは…

洗濯ですね。これまで洗濯と家事をしないで来たんですよ。でも、今、シングル・ファザーやってますから洗濯ってどうやったらいのか娘から教わったんです。そうしたら、簡単なんですね。なおかつ天気の良い日には見る見る乾く。普段、原稿を頼まれて出来上がるまでは自分でも結果が判らない仕事を常にしているわけですが、洗濯は干しておけば絶対乾くでしょう。こんなに楽な仕事で仕上がりが気持ち良い。この確実にやっている充実感が、もう安心なんですね。天気が良いと、今日中に書かなければならぬ原稿と洗濯のどっちを選ぶかという、つい洗濯しちゃって「また、洗濯を干しちゃったよ」という、そういう気分(笑)。

気負いなくストレートにお話してくださいきむらゆういちさん。創作活動の幅・量とも、どどることを知らないよ。2006年の油絵の個展計画など、まだまだ夢見るむ話をおたくさん伺ったかったのですが、残念ながら今回はここまでです。きむらさんの今後のさらなる活躍に目が離せません。





† 「Cafe alt」(カフェアルティ) にてくつろぐ卒業生たち

from
secretariat
office

チャリティ展覧会「多摩美術大学校友会小品展2005」の開催

年末恒例、今年で8回目となる「多摩美術大学校友会小品展2005」は会場をかえて、神田神保町の文房堂ギャラリーで開催いたします。私費留学生への奨学金作りを目的としたこのチャリティ展覧会は、最近では若い卒業生が賛同を得て出品数が多くなり、大変心強く感じています。

会期：2005年12月4日(日)～10日(土)10:00～18:30(初日15:00から／最終日17:00まで)
会場：文房堂ギャラリー(東京都千代田区神田神保町1-21-1文房堂ビル4F)

卒業生2名が芸術選奨受賞！

芸術の各分野で優れた活動をした人に贈られる「平成16年度芸術選奨」の美術部門で、日本画家で本学教授の中野嘉之さん('68日画)と写真家の宮本隆司さん('73GD)が文部科学大臣賞を受賞しました。中野さんは、昨年開催した個展「天空水」で見せた壮大な構想のもとに展開する機智的かつ覇気あふれる品格の高い表現が、今回の受賞につながりました。都市の廃墟的なものを撮り続ける宮本さんは、昨年世田谷美術館で開催された「宮本隆司写真展」の業績、なかでもピンホール写真という原初的手法の効果的な採用が高い評価を得ました。

2005年文化勲章を受章

陶芸家の青木龍山さん(本名:久重。'51日画・芸術院会員)が2005年文化勲章を受章しました。黒天目シリーズで現代工芸界をリードし、有田焼に新境地を開きました。「龍山の黒」と言われるほどの手法を確立しつつも、染付、染錦、金砂、銀砂、赤絵も手がけるなど、ますますの活躍が期待されています。

2005年秋の叙勲

2005年秋の叙勲にて、陶芸家の酒井田柿右衛門さん('58日画)が、旭日中綬章を受章しました。

大学創立70周年記念事業・ホームカミングデイ2005 in 八王子

多摩美術大学が創立70周年記念事業として卒業生をキャンパスにお招きするという初の試み「ホームカミングデイ2005 in 八王子」を2005年10月15日(土)に開催しました。テーマは「おかえりなさい」。当日、八王子キャンパスには1,300名以上の卒業生が集いました。この日は、各研究室の企画として卒業生によるシンポジウムや作品展、体験実習や上映会などが多数催されました。

大学企画イベントの竹中直人さん('80GD)の監督映画最新作品「サヨナラCOLOR」上映とトーク＆ライブは、笑いが飛び交う一体感ある空間となり、夕暮れ時から中庭で始まった松任谷由実さん('76日画)のトーク＆ライブは、卒業生・学生とも「卒業写真」「やさしさに包まれたなら」などの曲に感慨を覚え、世代を超えて心に残るひと時となりました。校友会では、屋外に白いパラソルにテーブルと椅子をご用意した「Cafe alt」(カフェアルティ)にて、ドリンクサービスをしました。この日、卒業生は大きく様変わりした八王子キャンパスで、現在の学生の姿に自分の昔の姿を重ね合わせ、単に時間と空間だけでは計ることのできない「変わったもの」「変わらないもの」を感じたのではないでしょうか。



← 70周年記念バッヂ

学生作品の展示風景 →

ホームカミングデイ・パーティー
(TAUホール)にて
卒業生と理事長、学長と談話き ↗† 70周年の記念品：マグカップ、スケッチブック、
ボールペン、クリアファイル、パンフレット
「多摩美術大学創立70周年記念号1935-2005」

桜並木が新入生をお出迎え

平成10年度から校友会では、新入生へのお祝いとして八王子キャンパスへ記念植樹を行っています。ソメイヨシノをはじめ、ザクロ、アンズ、ハナミズキ、コブシ、ケヤキ、クルミなどの木が新しいキャンパスに彩りを添えています。絵画北棟の脇はサクラ通りと呼ばれ、入学式のころには成長したソメイヨシノが花を咲かせて新入生を迎えていました。



あなたの展覧会・イベント情報の募集

Eメールはもちろんのこと、パソコンをお使いでない方でもDMを校友会事務局にお送りください。こちらで画像と文字情報をホームページ上に掲載します。「今月の展覧会」に、ぜひ、あなたの情報をお寄せください。また、「卒業生のHPリンク集」の情報をお待ちしています。

お忘れなく！住所変更是校友会へ

卒業生の名簿管理は、校友会で行っています。変更がある場合は、校友会事務局へご連絡ください。2005年6月より個人情報保護方針(HPに掲載)をうちだし、より安全な管理体制とセキュリティの向上を目指しています。

編集後記

大学創立70周年。校友会も設立からちょうど10年という節目の年を迎えるました。会報は一足早く、昨年のNo.10を節目としてリニューアルしました。会報を通して校友会の歩みや、今、何に力を注いでいるのかがおわかりいただけるような紙面作りを目指しています。今後は、会員の方の動向をたくさん掲載していきたいと思いますので、同窓会などの「集い」イベントを開催される際は、ぜひ情報をお寄せください。

計報

元校友会理事で彫刻家(日展常務理事、日本芸術院会員)の長江緑弥さん('48彫刻)が、2005年4月6日にご逝去されました。校友会設立準備から大変ご尽力をいただきました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

多摩美術大学校友会 会報 No.11

発行日：2005年11月20日 発行：多摩美術大学校友会事務局 〒158-8558 東京都世田谷区上野毛3-15-34
Tel : 03-5758-7738 Fax : 03-5758-7739 E-mail : alt@tamabi.ac.jp http://www.tamabi.ac.jp/alt/

企画編集：和田達也 イサオマツノ 伝宝詩子 岡廣恵子 末房志野 AD.D : 末房志野 D : 小谷真理恵 印刷：有限会社グラフィックケイ・エム・エー

多摩美術大学校友会会報
「alt」アルティ
The *alt* Alumni Association of
Tama Art University

No. 11
2005 Autumn

alt

平成17年6月5日(日)、上野毛キャンパスにて第11回校友会定期総会が開催されました。

校友会の運営は、卒業生の代表者である役員によって開催される「理事会」や「幹事会」を経て、最終的にこの「定期総会」で承認を得てから実施されます。定期総会は年1回の開催ですが、正会員のみなさんは誰でも出席することができ、校友会の運営について、会員として意見を述べることができます。もし、当日出席できない場合はお知らせと一緒に送付する「委任状」をご返信ください。ここでの署名によって、別の出席者に代理として任せることを表示し、会議に出席することと同じ意味を持ちます。校友会は、多摩美術大学の卒業生の会員のみなさんによって、そしてみなさんのために運営されているのです。来年は、定期総会にぜひご出席ください。総会終了後は、簡単な歓談の場も設けています。開催のお知らせは毎年4月末頃、お手元にお届けしています。

この誌面では、第11回定期総会で報告された収支報告と、議事録(裏面)を会員のみなさんにお知らせいたします。



第11回定期総会の様子

平成16年度収支報告書 (平成16年4月1日~平成17年3月31日)

平成17年度予算

積立基金 (平成7年11月3日~平成18年3月31日)

●収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異
当期収入合計	(31,570,000)	(41,582,740)	(△10,012,740)
会員収入	30,000,000	36,373,000	△6,373,000
名簿収入	20,000	10,000	10,000
懇親会費	400,000	424,000	△24,000
大学助成金	0	0	0
利子収入	150,000	3,236,861	△3,086,861
名簿出版準備金からの繰入収入	0	0	0
特別事業費積立金からの繰入収入	0	0	0
雑収入	1,000,000	1,538,879	△538,879
奨学生基会	0	0	0
前年度繰越支払資金	(23,624,898)	(23,624,898)	(0)
収入合計	55,194,898	65,207,638	△10,012,740

●収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異
会員費	(25,500,000)	(19,846,241)	(△5,653,759)
名簿費	1,500,000	1,424,753	75,247
名簿管理費	1,500,000	0	1,500,000
企画運営費	6,000,000	3,694,273	2,305,727
総会費	1,700,000	1,494,640	205,360
助成活動費	1,670,000	1,345,307	324,693
会議費	100,000	31,777	68,223
理事会活動費	200,000	391,510	△191,510
交通費	1,000,000	667,613	332,387
会合費	300,000	161,686	138,314
備品・消耗品費	1,000,000	1,189,865	△189,865
通信費	3,600,000	2,936,393	663,607
面接手数料	150,000	53,205	96,795
事務局員給与	4,300,000	4,436,193	△136,193
奨学生	2,000,000	2,000,000	0
予掛費	380,000	11,120	368,880
雑費	100,000	7,906	92,094
その他支出	(26,849,835)	(26,849,835)	(0)
基本準備金引当金	20,000,000	20,000,000	0
奨学生基金引当金	0	0	0
名簿出版準備金引当金	3,000,000	3,000,000	0
特別事業費引当金	3,000,000	3,000,000	0
顧問弁護士料			
会計士料			
前期末未払金	849,835	849,835	845,635
(調整勘定)	(△845,635)	(845,635)	
期末未払金		△845,635	845,635
次期繰越支払資金	(2,845,063)	(19,357,197)	(△16,512,134)
支出合計	55,194,898	65,207,638	△10,012,740

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異
会員費	(30,000,000)	(30,600,000)	(△600,000)
名簿費	1,700,000	1,700,000	113%
名簿管理費	5,000,000	5,000,000	333%
企画運営費	7,980,000	7,980,000	133%
総会費	1,360,000	1,360,000	80%
助成活動費	1,670,000	1,670,000	100%
会議費	100,000	100,000	100%
理事会活動費	360,000	360,000	180%
交通費	80,000	80,000	80%
会合費	250,000	250,000	83%
備品・消耗品費	1,100,000	1,100,000	110%
通信費	3,500,000	3,500,000	97%
面接手数料	100,000	100,000	67%
事務局員給与	4,300,000	4,300,000	100%
奨学生	2,000,000	2,000,000	100%
予掛費	280,000	280,000	74%
雑費	100,000	100,000	100%
その他支出	(26,845,635)	(26,845,635)	(97%)
基本準備金引当金	20,000,000	20,000,000	100%
奨学生基金引当金	0	0	-
名簿出版準備金引当金	3,000,000	3,000,000	100%
特別事業費引当金	3,000,000	3,000,000	100%
顧問弁護士料			
会計士料			
前期末未払金	845,635	845,635	845,635
次期繰越支払資金	(5,611,562)	(5,611,562)	
支出合計	63,057,197	63,057,197	

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異
会員費	9,000,000	4,000,000	1,000,000
名簿出版準備金	2,000,000	2,000,000	18,000,000
特別事業費積立金	14,399,561	14,399,561	14,399,561
全基金積立額	14,000,000	14,000,000	14,000,000
平成07年度	11,000,000	5,000,000	2,000,000
平成08年度	10,000,000	2,399,561	1,000,000
平成09年度	5,000,000	2,000,000	1,000,000
平成10年度	10,000,000	3,000,000	8,000,000
平成11年度	10,000,000	3,000,000	3,000,000
平成12年度	10,000,000	3,000,000	3,000,000
平成13年度	20,000,000	1,365,950	3,000,000
平成14年度	20,000,000	3,000,000	3,000,000
平成15年度	20,000,000	3,000,000	3,000,000
平成16年度	20,000,000	3,000,000	3,000,000
平成17年度	20,000,000	3,000,000	3,000,000
合計	155,000,000	3,765,511	8,000,000
合計	21,500,000	188,265,511	188,265,511

■会費の納入をお願いいたします！

校友会では、会報の発行、卒業生データベースの管理、懇親会の開催、各支部への助成、奨学金など、会員および学生に向けての活動から、展覧会の開催、出前アート大学など社会貢献活動を行っています。これらの活動は全て、会員の会費によって運営されています。今後も会員、学生および社会へ向けて貢献できる事業を展開していきたいと考えています。ぜひ、校友会の主旨をご理解いただき、会費納入にご協力をお願いいたします。

■会費の納入方法について

- 毎年、未納・分納の会員には、会報の発送に「郵便振替用紙」を同封させていただいております。お近くの郵便局でお手続きください(手数料は校友会負担)。また、用紙が必要な場合には、すぐに事務局よりお送りいたしますのでご連絡ください。
- 事務局にて直接、現金でお支払いいただくことも可能です。その際は、事前に事務局までご連絡をお願いいたします。
- 終身会費は、30,000円です。10,000円×3回の分納も可能です。

*上記、平成17年6月5日の定期総会にて、承認されました。

第11回校友会定期総会議事録

日時 平成17年6月5日(日)13:00~14:30

場所 多摩美術大学上野毛キャンパス(3号館3-303講義室)

■開会の挨拶 司会:武正秀治('80PD)

■議長の選出 議長:河内成幸('73油画)

■書記の選出 書記:松下宣康('69年画)

■議長より総会成立条件の報告

(議決権所有者6,834名中、出席者88名、委任状1,132名)

■議長が議事進行を宣言

〈議案第1号〉平成16年度事業計画の報告

●和田達也事務局長('81PD)より説明。

○主な事業内容の報告

○新入生へのお祝いとして、八王子キャンパスにソメイヨシノ5本、コブシ2本、ハナミズキ1本、ケヤキ1本、ガクロ1本を植樹(4月1日)

○新入生へのお祝いとして、上野毛キャンパスにベンチ1個を寄贈(4月1日)

○第54回理事会(5月15日)

○第10回定期総会(6月6日)

○第10回定期総会／鶴見雅夫が会長に就任。青戸英子、河内成幸、田淵謙が副会長に就任。和田達也が事務局長に就任。(6月6日)

○第10回支部長懇談会(6月6日)

○ガーデン同窓会＆懇親会パーティー(6月6日)

○私費留学生奨学金を5名に給付(6月6日)

○第55回理事会(7月10日)

○出前アート大学 授業No.001実施「みんなの体育館を絵で飾ろう」講師:秋山孝(7月26日~27日)

○出前アート大学 授業No.002実施「風景を変えてみよう!」講師:栗田融(9月17日~4回)

○第56回理事会(9月18日)

○平成16年度奨学金を15名に給付(9月18日)

○八王子芸術祭の助成(11月1日)

○上野毛芸術祭の助成(11月1日)

○第8回 四美大校友会・同窓会親睦交歓会(幹事:東京造形大学校友会／11月19日)

○第57回理事会(11月20日)

○会報「aIT」No.10発行(11月30日)

○「多摩美術大学校友会小品展2004」の開催(ギャラリーくぼた別館／12月13日~19日)

○多摩教育の会「新春の集い」(上野毛キャンパス／1月8日)

○出前アート大学 授業No.003実施「手で考えて、見つけよう」講師:塙澤宏信(1月17日~18日)

○第58回理事会・新年会(1月22日)

○第59回理事会(3月5日)

○質疑

「毎年、新入生へのお祝いとして、上野毛キャンパスへベンチの寄贈とか、八王子キャンパスへ桜の植樹とか大変結構ですけれども、上野毛キャンパスの日常の芝生の手入れに対して、校友会がひとつの見識をもっても良いのではないかと思いますが。」

○応答 和田達也事務局長('81PD)

「各キャンパスへのお祝いについては、学内幹事と理事の方と充分な検討をしたいと思います。」

●その後、議長が質問を受け付けたが、質問はなく拍手多数によって議案第1号は承認された。

〈議案第2号〉平成17年度事業計画(案)

●和田達也事務局長('81PD)より説明。

○主な事業計画案

○新入生へのお祝いとして、八王子キャンパスにハナミズキ6本、クリスマス本を植樹(4月1日)

○新入生へのお祝いとして、上野毛キャンパスにベンチ1個を寄贈(4月1日)

○第60回理事会(5月21日)

○第11回定期総会(6月5日)

○第11回支部長懇談会(6月5日)

○懇親会パーティー(6月5日)

○私費留学生奨学金を5名に給付(6月5日)

○出前アート大学 授業No.004実施予定(7月)

○出前アート大学 授業No.005実施予定(7月)

○第62回理事会(9月17日)

○平成17年度奨学金を15名に給付(9月17日)

○出前アート大学 授業No.006実施予定(9月)

○出前アート大学 授業No.007実施予定(10月)

○八王子芸術祭の助成(11月1日)

○上野毛芸術祭の助成(11月1日)

○「東京国際ミニプリントトリエンナーレ2005」の協賛(多摩美術大学美術館／11月2日~1月22日)

○第63回理事会(11月12日)

○会報「aIT」No.11発行(11月20日)

○「多摩美術大学校友会小品展2005」の開催(文房堂ギャラリー／12月4日~10日)

○多摩教育の会「新春の集い」(上野毛キャンパス)

○出前アート大学 授業No.008実施予定(2月~3月)

○第64回理事会・新年会(1月21日)

○第65回理事会(3月18日)

○質疑

「創立70周年記念イベント、これは大学になってからですね？大学以前の人は、どうなりますか？」

○応答 伊藤憲夫理事('76油画)

「多摩美術大学は創立70周年で、それは1935年からということですので、多摩帝国美術学校、多摩造形芸術専門学校、多摩美術短期大学、多摩芸術学園の卒業生がすべて対象になります。」

●その後、議長が質問を受け付けたが、質問はなく拍手多数によって議案第2号は承認された。

〈監査報告〉

●向田吉彦理事('64映画)

●その後、議長が質問を受け付けたが、質問はなく拍手多数によって議案第3号は承認された。

〈議案第4号〉平成17年度予算(案)

●和田達也事務局長('81PD)より説明。

○質疑

「予算と決算(の差異)が数字の上でマイナスになっています。収入の部の予算額が5,500万円で、収入が6,500万円だったらプラスではないですか？これは、よく理解できないのですが。」

○応答 和田達也事務局長('81PD)

「これは、赤字ということでは無くて記載の方法です。赤字はもちろん出しておりませんし、これは「差異」です。経理上、帳簿上での表示のため、誤解を招く可能性があるので今後は、補足説明を充実し、記入の方法、表記の方法も見直したいと思います。」

○質疑

「収入と支出がマイナスなのかプラスなのかが、今、混同されていると思います。予算に対して支出が多いということは、予算に関しては、去年、出していた予算案に対してはマイナスであるということを言ってらっしゃるんですね。全体の資産の問題ではなくて、去年に対してどうか、というのをおっしゃったほうが良いと思います。」

○応答 和田達也事務局長('81PD)

「会社とか、赤字ではないというのは要するに原資やベースがありますから、ただ今、ご指摘があったように、収入の部に対しては、去年、出した予算案に対してはマイナスであるという事です。だから、それに向けて17年度に関しては、そこを少し調整した予算案になっています。」

●その後、議長が質問を受け付けたが、質問はなく拍手多数によって議案第4号は承認された。

〈議案第5号〉平成17年度役員改選(案)

●和田達也事務局長('81PD)より説明。

「17年度、八王子と上野毛の学内幹事に若干変更があります。理事会の役割分担については、記載の通り構成していきたいと思っております。」

○質疑

「素人で申し訳ないのですが、役員の任期というのは何年とか決められているのでしょうか？」

○応答 和田達也事務局長('81PD)

「理事は、3年3期です。事務局長は6年まで、渡辺達正前事務局長が6年で終了されて、私はバトンタッチされたかたちになっています。細かいところにつきましては、会則の中に出ています。その任期通りにわれわれは動いております。」

〈議案第5号〉役割分担(案)

●河内成幸議長('73油画)より、役割分担について補足説明。

●議長が質問を受け付けたが、質問はなく拍手多数によって議案第5号は承認された。

〈議案第6号〉個人情報保護方針について

●和田達也事務局長('81PD)より説明。

「今年の4月からしかれた法律が校友会という団体にも適合され、まずはプライバシーポリシー(方針)を立て、その方針を会員に公表しないといふことで、校友会ホームページで立ち上げを準備しております。情報の取得、利用目的、提供について明らかに示してあります。ご協力、お願いいたします。」

●議長が質問を受け付けたが、質問はなく拍手多数によって議案第6号は承認された。

■議長が全議案の成立を報告し、第11回定期総会の終了を宣言した。

■挨拶 校友会会長 鶴見雅夫('59油画)

■挨拶 大学理事長 藤谷宣人

(文中、敬称略)